



開墾された八ツ堀のしみず谷津

Contents

<グリーンインフラの可能性>
NPO富里のホタル
清水建設株式会社

<ちい寄附賛同店>
麵屋 青山
楽酒ダイニング武尊

<とみさとの魅力みーつけた！>
養蜂家 勝又 颯大氏

私たちが暮らす富里は、緑豊かな里山に恵まれています。その里山を形成している谷津は、以前は稲作などが盛んに行われていましたが、今では放置され荒れてしまっているところが増えてしまいました。

その谷津を整備し保全しようとする市民活動団体が、ここ富里でも増えています。活動のきっかけはそれぞれ違いますが、その取組は近年注目されているグリーンインフラの概念に通じるものがありました。

グリーンインフラの可能性 循環型の地域を目指して

植物や虫が好きだったことが・・・

散歩中に1匹のホタルを見つけたことがきっかけで「ホタル舞う富里を次世代に繋げていきたい」と15年前から活動している特定非営利活動法人NPO富里のホタル。地主の許可を得て、谷津を整備してきました。うっそうとした木々を伐採し、あぜ道を整備し、今では湧き水を溜めた田んぼは絶滅危惧種に指定されているニホンアカガエルが住みつき、ホタルもたくさん飛び交っています。そして毎年、地域の子もたちを呼んで昔ながらの稲作体験を実施しています。自然環境保全を目的とした活動を通して、谷津を利用する人たちとのつながりが増え、子どもたちが生きものと戯れる場所になったことを喜んでいます。

「我々は以前から昔の人たちが行っていた自然との関わりを実践しているだけです。難しいことではなく植物が好き、虫が好きといった人間が集まって作業しているだけですよ。」と話してくれたのは、副理事長の鈴木さん。

こうした活動は近年推奨されているグリーンインフラという概念に通じるものだったと知ったそうです。



昔ながらの手法で田植え体験

持続可能で魅力あるまちづくり

グリーンインフラとは、自然環境が持つ多様な機能を活用して、持続可能で魅力的な地域づくりを目指す考え方です。日本でも令和元年に、国土交通省から「グリーンインフラ推進戦略」が公表され、様々な場所で行われてきま

した。例えば、ビルの屋上や壁面に緑地を取り入れることでヒートアイランド現象の緩和に役立ちます。荒れた森林は適切に管理することで生物多様性の向上につながり、子どもたちが自然や生き物と触れ合う場所に。また、谷津などの地域の地形を活かし雨水を一時的に溜めることによって、土壌にゆっくりと浸み込む自然の水循環を生み、水害を最小限にとどめる効果も出てきます。



手作業で開墾する市民活動団体のメンバー

人力で開墾

葦や竹で荒れ果てた土地を伐開し、涸れていた用水路を復元した「八ツ堀のしみず谷津」と命名された谷津があります。東京に本社を置く清水建設株式会社が国立の研究所や大学、地元の市民活動団体や市民と共に、それぞれの持つ特性を活かして、2021年5月から谷津を再生させるプロジェクトを行ってきました。

「重機を入れず、人力で開墾する」

そこに生息する動植物を守ることや、脱カーボンへの取組を意識してのことです。毎月1回、社員の他、富里市内で活動する市民活動団体の有志と共に、マンパワーのみで荒地を整備しています。同時に、水生生物探索・水害抑制機能調査・水質調査など多岐に渡り、専門家がリーダーとなり谷津の調査も進められています。

伐採した竹を燃やし炭にしてそれを地元の農家に譲り、それを土壌改良剤として土壌に戻し、資源を循環させます。伐採したところには日が当たり、植物がよく育ち虫が集まります。活動を始めた冬にはキジが現れ、翌春にはアオサギやフクロウ、サシバがやってくる様子を谷津内に設置したWebカメラの動画で確認することができました。

2022年の春には田んぼを整備し、お米作りにも取り掛かれるまでになりました。そして夏には、200匹以上のヘイケボタルが出現。ホタルが生きるために必要なのは、きれいな水のある場所と、エサとなるカワニナの稚貝などの生物がいる場所だと言われています。荒れ果てた谷津をホタルが舞うまでに整備してきたことが、結果となって表れました。

プロジェクトの立ち上げから関わっている清水建設株式会社グリーンインフラ推進部部長の橋本さんは、「最初からプロジェクトに関わることは、本当におもしろいです。谷津が整備されていく見た目の達成感だけでなく、生物が活動する様を見て手応えを感じています。地域の方や研究機関の協力があってこそ。ここまで整備できたので、たくさんの人に来てほしいです。」と話してくれました。



燃やした竹は炭にして農家に

目に見える成果が励みに

最近では、台風や大雨災害が多くなり、大量に降る雨水の処理が追い付かないといった街の洪水の被害は、暮らしにダメージを与えています。

川の上流地域にあたる富里の湿地帯である谷津を整備することで、雨水を一旦谷津に溜めることができます。同じ量の雨が降っても、ゆっくりと川に流れ込むことで下流の流れを堰き止めることができ、減災にもつながっていきます。

また、谷津を整備することで、田植えができ、多種多様な生き物が増え、そこが子どもたちの遊び場にもなる、まさにグリーンインフラの目指す、循環型のまちづくりです。

天神谷津や八つ堀のしみず谷津には、グリーンインフラの調査などで各関係機関の方がたくさん訪れるようになりました。市民活動団体の皆さんは、谷津を整備した効果が数字で確認でき、それが励みとなり、環境保全の一面を担っているという実感が湧き、富里の谷津の可能性がどんどん広がっていく手ごたえを感じているそうです。

このようなグリーンインフラを意識した谷津を整備している団体がまだありますので、今後も取材を通してお伝えしていこうと思います。



企業や研究機関、市民活動団体といった異なる立場の方々が里山の谷津で、皆一様に汗をかき泥まみれになりながら活動する様子を間近で見て、皆さんが楽しそうに取り組んでいることが印象的でした。自然はそのままにしておくことを良しとする意見もありますが、人の手が入り豊かな谷津を取り戻した里山の環境整備は、多様な動植物を育み、子どもたちの自然体験や農業体験の場にもなります。また、そこに関わる人々のやりがいや生きがいにもつながっているのだからと改めて実感しました。

紹介した活動について、もっと知りたい方はサポートセンターまでお問合せください。

「寄附で支えるまちづくり」に賛同しているお店

ほたか

楽酒ダイニング武尊

幸島 秀之さん

お店を開いて10年になります。「ちい寄附」のことを知り、この辺りのお店の方は、地域を盛り上げようと一生懸命頑張っているの、私も賛同しました。



【富里市日吉台4-9-21 2F Tel 0476-92-3779】

麺屋 青山

皆見 正弘さん

賛同店になって5年が経ちました。地域のためにがんばっている市民活動団体の皆さんのためになればと思い、これからもサポートしていきたいと思っています。

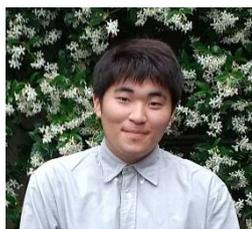


【富里市日吉台2-19-11 Tel 0476-91-0808】

とみさとの魅力みつけた！

富里の魅力ある「人」「場所」「文化」などにスポットを当てて紹介していきます。

そうだい
勝又 颯大さん
養蜂家



暖くなると、花の香りに誘われて谷津の花々を飛び回るミツバチたち。その魅力の虜になり、幼い頃からミツバチを育てているのが勝又颯大さんです。

勝又さんとミツバチとの出会いは、3歳の頃に自宅の軒先に作られたスズメバチの巣を解体したものを見た時から。きれいに揃った六角形である事に衝撃を受けたそうです。

実際に巣箱の中も見せてもらいましたが、精密に揃えられた六角形の穴やカビやゴミが一つもない巣箱は興味深いものがありました。巣は「蜜」「花粉」「育児」の3層に分かれていることや、ミツバチはハチミツを食べて腺（ろうせん）と呼ばれる器官から蜜を出して巣作りをすること、きれい好きでカビの元になるようなものは一切持ち込まないそうです。

実家が建築関係のお仕事だという勝又さん。見る視点が違い、巣に興味が出るということにも納得です。

ミツバチに出会ってからは図書館に足しげく通い、多くの専門書を毎日読みあさり、小学5年生の頃にはミツバチの捕獲に成功し、生体の観察を本格的に始めました。8年経った今では、ニホンミツバチ12群（※）とセイヨウミツバチ6群、計10万匹超のミツバチを養蜂し、市民活動団体の活動場所に巣箱を置かせてもらっているそうです。（※）「群」とは巣箱ごとの呼び方。

そして、採れたハチミツや古い巣を切り取った際の蜜蝋を販売することで、ミツバチのための花苗を購入しているそうです。

若干20歳にしてベテランの域に達している勝又さんですが、今までで苦労したことなどなかったのか聞いてみたところ、初めて巣箱を使って養蜂を始めた年に、箱から巣枠を取り出そうとしたらうっかり女王蜂を潰してしまい、ミツバチたちが徐々に少なくなり巣が消滅してしまったことがあるとか…。

失敗も苦労も身になってこそ、今があるんですね。

「ミツバチと一言と言っても、ニホンミツバチとセイヨウミツバチで生態が違うんですよ。ニホンかセイヨウかで体の匂いも違うんです！」と熱く語ってくれました。取材が終わる頃には取材スタッフもミツバチたちがかわいく見えてきました。

今後も富里市内の自然や生態系を見守りながら維持していきたいとのこと。活躍が楽しみです！



ハチや巣箱に異常がないかを見回り作業している様子

コーディネーターのひとりごと

今年は4年ぶりに富里スイカロードレース大会が開催され、各地でもお祭りや花火大会などイベント盛り沢山。数年前に購入したまま一度も着ていない浴衣を今年こそ着て、友達も誘って、子どもと一緒にお祭りに行きたいな。友達との会話に夢中で花火見忘れ注意！（ちーちゃん）

SNSアカウント



<連絡先>とみさと市民活動サポートセンター

〒286-0292 千葉県富里市七栄652番地1(富里市役所 すこやかセンター1階)

■Tel/Fax:0476-93-4123 ■E:tomisapo@bz04.plala.or.jp

年4回発行 発行部数:2500部 配布先:市内公共施設 他

